

Title	イスラム以前のアラブ関係歴史年表
Author(s)	高階, 美行
Citation	大阪外国語大学学報. 58 p.115-p.153
Issue Date	1982-11-08
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80909
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

イスラム以前のアラブ関係歴史年表

高 階 美 行

A Tentative Chronological Table of Arabs Before Islam

by Yoshiyuki TAKASHINA

In the following is given a tentative chronological table of facts and events related to the Arabs before Islam. This is, as it were, a by-product of my study in the Pre-classical North Arabic—especially ‘Old Arabic’ in C. Rabin’s term (see his article ‘*Arabiyya*’ in *EI*²)—in which I have been engaged for the past few years. No doubt the knowledge of historical events Arabs were involved in is often vital not only to fix the date of inscriptions, Dedanite or Safaitic, but also to understand properly the content of them. But regrettably students of a language sometimes fail to have such a knowledge enough to cope with the intricacies of Ancient Near East in every detail, and the present writer is one, too. To make matters worse still, the history of Arabs before Islam is seldom treated as an integral entity of a sequence of facts and events except in only a few books like that of Hitti’s.

Such being the case, the present writer has begun to pick up and put down facts and events concerning the early history of Arabs from among the various works read in his study of Old Arabic with private use of them in mind. When quite a lot have been assembled, however, it now seems advisable to give them an explicit format and let them serve others as well if such a mere collection of facts were to contain something of value. Hence the chronological table you see below. Considering the process of its preparation and the fact that the present writer is no student of history, the result must be nothing short of a memorandum lacking in methodology and firsthand handling of materials in history, which is far beyond him. So admittedly the table must have left much to be corrected.

In the chronological table below, *synchronistic tables* attached to the *Cambridge Ancient History* have been kept in mind, and the facts and events are allotted to the columns divided according to the region, tribe and kingdom. Roughly the arrangement of columns from left to right corresponds to the geographical distribution from west to east. Kingdoms of Lakhmids, Ghassanids and Kindah have been placed to the left of ‘North Arabs’ because

of the central region of their activities, though South Arabian in origin. Fixing the dates has been most difficult and it is by no means rare that scholars differ in fixing the date of a seemingly well-known event. In such cases, different dates are put side by side. South Arabia was, moreover, virtually a closed world having little events in common with the outer Classical world, and accordingly the dates concerning South Arabia are based more or less on the precarious grounds hardly free from assumptions but this cannot be helped at this moment. Other things relating to the arrangement and abbreviations employed may be mostly self-explanatory at least for those interested in the table and should present no difficulty in using it. Otherwise please refer to the bibliographical list. At the end two maps are appended to show the place names occurring in the chronological table. I could not but leave out some that can not be identified or those which fall out of these maps.

Despite various shortcomings and errors unavoidable owing to the nature of the work and the incapacity of the present writer, it is not so much for the benefit of reference in later studies as out of a conviction that Arabs ought to have a Pre-Islamic history where Arabs themselves are in the spotlight, that I present this work here.

I. はじめに

近年とみに興隆してきたアラブ・アラビア語研究の中でも、イスラム以前を扱うもの又はそれに言及するものは、イスラム以後を対象とするものに比べ数もだいたい少ないのが現状である。過去数年、前古典北アラビア語 Pre-classical North Arabic¹⁾に興味を懷き勉強するうちに、たとえイスラム前のアラビア語を調べるにしても各時代のアラブ人の歴史によく通じていることが不可欠であると痛感された。研究対象とする碑文が言及する内容を理解したり、碑文そのものの年代や使用された言語の年代を決定することも、それなしには断然不可能なのである。後代に比べて資料のそう多くない時代の言語状況を考慮すれば、時代背景への理解が碑文解釈にしばしば決定権を持つのも首肯される。

しかし事はさほど容易ではない。イスラム後のアラブ史は、概して資料の豊富さも手伝って預言者ムハンマドの時代より現代まで通覧するのもそれほど困難でなく、様々の通史はそういうものを提供してくれる。ところがイスラム前に関しては、どうであろうか。通史の冒頭で手短に触れられるものに満足できず詳細を知りたい時、人は狼狽するのみである。古代オリエントではアッシリア史や古代ユダヤ史の中に、また古典時代にはローマ史やビザンツ史に、更にはペルシャ史にまで散らばっているからである。イスラム前においてアラブは決してオリエント史の中核と

1) S. Moscati (ed.); *An Introduction to the Comparative Grammar of the Semitic Languages*, Wiesbaden, 1964, p. 14 の用語。

となるほどの存在ではなかったために、アッシリア、ローマ、ペルシャ各国史の中で周辺の事実としてアラブ人との関わりが扱われているにすぎないのである。確かに一時期栄える隊商国家を扱う研究書もあるとは言え、残念なことにアラブ史の長い歴史的視点を欠くことが多い。これらすべてに通暁することは、しかし、一介の言語研究者にとって甚だ重すぎる荷と言えよう。

イスラム以降に関する J.L.Bacharach; *A Near East Studies Handbook, 570-1974*, Seattle/London, (1974) rev. ed. 1977 のように王朝表、系図、年表、歴史地図、暦年対応表等を含むものは望むべくもないにしても、アラブを中心とする古代年表は存在してよい筈である。そこで古代アラビア語 Old Arabic²⁾ の勉強のかたわら、The Cambridge Ancient History, vol. III の巻末に付された Synchronistic Table を念頭に置きメモを取り始めて、ようやく資料がある程度まで集まったので図表にまとめたのが以下の仕事である。

年表作製の経過よりわかるとおり、この仕事は歴史学の基本に無知な素人が興味本位にあれこれの研究より捨い集めた事実の集積に過ぎず、あくまでメモ、備忘録である。力量不足による解釈の誤認や不注意からくる誤りも多かるうし、更には H. von Wissmann のヒムヤル史のように参照すべき文献が都合で見られなかったりしたことなど欠点は多い。それ故事実の誤りや改善すべき点はどうか御指摘願いたい。

にもかかわらず、こうした形でまとめるのは、今後参照する際の便宜のためもさることながら、アラブはイスラム前においても自らを中心とする歴史を持つべきであるし、それはイスラム後のアラブ史と連続したものである筈だという信念による。その一助になればとの思い切なる哉。

II. 年表の見方と若干の説明

- a) この表ではアラブを地域、民族、王国により分割して記入欄を区別し、相互の関係が明瞭になるように工夫した。左右の並びはほぼ西から東にかけての地理的区分に対応するが、表のまとまりの関係上厳密にはそうでない箇所もある。

「古代オリエント」——アラブとの関係で重要な項目のみ記入したが、言語的興味から文字史に関する事項も入れた。400 B.C. 以降については余白のせいで、パルミユラの欄内に記入せざるを得なかった。

「北アラブ」——言語的民族的呼称であるが、A.D. 2-3 世紀の頃には北アラブと血縁関係のあるローマ皇帝に関連する事項も含めた。

「南アラブ」——言語的民族的呼称であるが、600 B.C. 以降は各王国毎に区分した。その場合南アラブ全体に関連する事項はサバ王国の欄に記入した。

「ナバタイ」——出身は北アラブの遊牧民であるが隊商都市国家を築き、そのナバタイ語（アラム語の方言）が大きな影響を持ったので独立欄を設ける。尚、彼らは当時の国際語であるアラム語を用いたが民族的にアラブ人であったことは、碑文中の固有名詞の研究に基き1863

2) C. Rabin; “‘Arabiyya’ in *EF*², vol. I, pp. 561b-4b の用語。

年に Th. Nöldeke³⁾ が指摘して以来確立された事実である^{補註)}。

「パルミユラ」——元来アラム人の町であったが、前一千年紀後半以降は周辺の北アラブ遊牧民が流入した。44 B.C. の最古の碑文を初めとするパルミユラ語（アラム語の方言）碑文に現われる固有名詞の研究によれば、住民の名前の半数以上がアラビア語で理解されることが判明した⁴⁾。従って、北アラブより独立した独自の欄を設ける。尚、「タドモール」「タドムル」が民族語による名称でありその使用が望ましいが、慣行に従いギリシャ語名「パルミユラ」を用いる。

「ラフム」「ガッサーン」「キンダ」——ラフム王国に関係したタヌーフ部族、アズド部族、ラフム部族、それにガッサーン部族、キンダ部族は、すべて南アラブ起源である。しかし移住後のアラビア北部中部で王国を築きビザンツ帝国やササン朝と重要な関係を持つほどの存在だったので、独自の欄をそれぞれに設ける。又、北アラブの中心ヒジャーズ地方と同じかそれより北部に位置したため、北アラブ欄より左に置く。

- b) 以上の各欄の横幅は必ずしも、当該王国等の勢力の強さや領土的規模を示すものではない。特に A.D.1 世紀中頃以前に形成されたサバとヒムヤルの「連合国家」は、全体としてサバがヒムヤルに対して主導権を持ちつつもサバ国内に様々な王朝が存立して複雑な様相を示していた。従って、3 世紀末にヒムヤルが最終的に勝利を得るまで二国間の境界線は実線ではなく点線とした。
- c) 各項目の年代記入は大きな困難だった。年代数字を伴わない項目は、年代を特定できないが重要であると判断されるものであり、? 印のついたものは、年代的位置が根拠を持って特定できないが比定の幅が比較的狭いものを指す。「この頃」「同じ頃」は、これらの前後左右の年代に基きその位置が判断されるものである。又、年代数字に疑いがあるものは疑問符を付し（例、37?）、年数計算の相違により年代数字が複数考えられるものは間に斜線を入れた（例、266/267）。更に、可能な限り情報を盛り込むために世紀や千年紀単位で表わされることも入れたが、それらには必要に応じて「前半、後半、初、末」の表現を付した上で妥当と思われる箇所記入した。

ところで、古代史において年代決定は、年代の確実なローマ、ギリシャ、ペルシャの歴史的イベントと関係させて行なわれるが、アラブ自らはナバタイ、パルミユラ、南アラブを除き年代を伴う碑文を残さなかったために、外部古典世界とつながるイベントが無ければ、しばしば年代数字は研究者の立場により差異を生ずることになる。特にアラビア半島南部は半ば閉ざされた世界であったために、年代決定に推論が入り込まざるを得ない。ヒムヤル紀元の決定ですらそうであるから、大半が互いに相対的な位置しか判明せず絶対年代がわからないのも当然のことであ

3) F. Rosenthal; *Die aramaische Forschung seit Th. Nöldeke's Veröffentlichungen*, Leiden, (1939) repr. 1964, p. 89.

4) J. K. Stark; *Personal Names in Palmyrene Inscriptions*, Oxford, 1971, p. xx.

る。従って、本年表中の南アラブ欄の A.D. 5 世紀以前の年代は注意深く扱われねばならない。そうした中でも、文献リスト中に示した葦氏の研究は大きな指針となった。

- d) 皇帝及び国王の名の直後に付した括弧内数字、又はその即位記事後に付した数字（例、ナバタイ王 Aretas III の即位 c. 87 の記事の末尾にある-62）は在位年の幅を示す。尤も死せずして権力の交替は無かったから、正確には即位年と死亡年を示す。

又、ガッサーンにおける王の順位に関し注記せねばならない。363の「ハーリス 2 世」と495の「ハーリス 4 世」がいるのに対して527/529に「ハーリス 2 世」が即位している。異なる研究者によるものであるが、力量不足でこの矛盾を明らかにしきれなかった。そのままにしておく。尚、この時代はガッサーン、ラフム、キンダ三国にまたがり同名の王が多数存在したので、混同しないことが肝心である。

- e) 固有名詞の表記は、今後の参照の便と原音を知る必要から片仮名を用いなかった。但し原音の調べがつかなかったり何度も出てくる場合は、片仮名表記としている。また転写法は、本来統一すべきであるが、多くの場合参照した文献の表記に従った。英語名とラテン／ギリシャ名とが混ざっている場合もあるが、原音主義を採りつつもしばしば慣用に従ったからである。将来不都合があれば、改める。

- f) 以上の説明で尽せないこともあるが、誤解と混乱が生じない範囲で処理をした。

- g) 若干の略号を用いたが、周知のものを除いては文献リスト中にその説明を入れた。尚、c.320 は320年頃を、2C は2世紀を指す。B.C., A.D. はピリオドを省略し BC, AD とした。

- h) 末尾には、本歴史年表中に出てくる地名の位置を示す地名図を付した。都合により「北アラブ」と「南アラブ」に分割してあるが、若干数の同定できない地名と伝承上の地名及び地図の範囲外になるものを除き、大半は地図上に明示できた。参照の便に役立てば幸いである。

III. 利用した文献リスト

歴史の専門家でない者が作る年表である故、当初、表中の全項目にその典拠・出典を註の形で明示しようと試みたが、膨大な量になることと簡にして瞭然たるべき年表の姿を損うことのために断念した。年表作製に利用した主たる研究文献は以下のものである。

(1) 全体にかかわるもの

日比野丈夫(編)；『世界史年表』、昭和48年。

平田俊春；『最新世界史年表』、昭和51年。

The Encyclopaedia of Islam², *Abraha, al-'Arab* (A. Grohmann), *Djazīrat al-'Arab* (vii) History, *Ghassān, al-Hira, Kinda, etc.*

Encyclopaedia Judaica, *Himyar, Nabataeans, Petra, Tadmor, etc.*

Hitti, P. K.; *History of the Arabs*, 8th ed., London, 1964.

Mellersh, H. E. L.; *Chronology of the Ancient World, 10,000 B.C. to A.D. 799*, London, 1976.

(2) 文字史

Driver, G. R.; *Semitic Writing from Pictograph to Alphabet*, newly rev. (3rd ed. by S.A. Hopkins, London, 1976 [D と略].

Gelb, I. J.; *A Study of Writing*, rev. ed., Chicago, 1963 [G と略].

Naveh, J.; “Alphabet, Hebrew” in *Encyclopaedia Judaica*, vol. 2 (674–689), 1972.

do.; *Die Entstehung des Alphabets*, Köln, 1979 (orig. title *Origins of the Alphabet*, Jerusalem, 1975).

上記二つの Naveh の文献は基本的に同一内容のもので F. M. Cross の見解を基としている [C/N と略].

(3) 古代北アラブ

The Cambridge Ancient History, vol. II, Cambridge, repr. 1976.

Dietrich, A.; “Geschichte Arabiens vor dem Islam” in *Handbuch der Orientalistik*, I. Abt., II. Bd., 4. Abs., Lief. 2, SS. 291–336, Leiden/Köln, 1966.

Hommel, F.; *Ethnologie und Geographie des alten Orients* (Handbuch der Altertumswissenschaft, 3. Abt., 1. Teil, 1. Bd.) München, 1926, SS. 578–589.

Pritchard, J. B.; *Ancient Near Eastern Texts*, 3rd ed., Princeton, 1969.

Rosmarin, T. W.; “Aribi und Arabien in den babylonisch-assyrischen Quellen”, *Journal of the Society of Oriental Research*, vol. XVI, 1932, pp. 1–37.

Winnet, F. V. & W. L. Reed; *Ancient Records from North Arabia* (Near and Middle East Series 6), Toronto, 1970.

(4) 南アラビア

薮 勇造; 「古代南アラビア史のクロノロジーに関する一考察」, 『オリエント』 第19巻第1号, 1976, pp. 33–54.

… ……; 「古代南アラビア碑文中の ‘rb (‘‘rb)」, 『オリエント』 第22巻第2号, 1979, pp. 17–38.

… ……; 「幸福なアラビア (イスラム前)」, 『オリエント史講座 3 渦巻く諸宗教』, 昭和57年, pp. 237–262.

Beeston, A. F. L.; *A Descriptive Grammar of Epigraphic South Arabian*, London, 1962.

Doe, B.; *Southern Arabia*, London, 1971.

Glaser, E.; *Skizze der Geschichte und Geographie Arabiens von den ältesten Zeiten bis zum Propheten Muhammad*, [Berlin, 1890] repr. Hildesheim, 1976.

Nielsen, D. (ed.); *Handbuch der altarabischen Altertumskunde*, I. Bd.: Die altarabische Kultur, Kopenhagen, 1927.

Schoff, W. H.; *The Periplus of the Erythraean Sea*, [New York, 1912] repr. New Delhi, 1974.

主として Doe に拠るが薮氏の第1論文中の表1は大いに役立った。特に感謝する旨記す。

(5) ナバタイ

小玉新次郎; 「隊商都市」, 『オリエント史講座 3』, pp. 75–104.

Cantineau, J.; *Le Nabatéen*, [Paris, 1930] repr. 2 vols. in 1, Osnabrück, 1978.

Lindner, M. (ed.); *Petra und das Königreich der Nabatäer*, 3. Auf., München, 1980.

Rheinisches Landmuseum Bonn; *Die Nabatäer* (Kunst und Altertum am Rhein, Nr. 106), Köln/Bonn, 1981.

(6) パルミラ

片倉もと子; 「シルクロードに咲いて散った花」, 『篠山紀信シルクロード6, シリア・ヨルダン・イラク』, 昭和57年.

小玉新次郎; 『パルミラ——隊商都市』, 世界史研究双書24, 1980.

前嶋信次・加藤久晴; 『女王の隊商都市』 ユーラシアシルクロード3, 昭和57年, 特に pp. 173–197.

Browning, I.; *Palmyra*, London, 1979.

Cantineau, J.; *Grammaire du Palmyrénien Épigraphique*, Cairo, 1935.

(7) ラフム

Rothstein, G.; *Die Dynastie der Lakhmiden in al-Hiira*, Berlin, 1899.

(8) 「無明時代」の北アラブ

後藤 晃; 『ムハンマドとアラブ』, オリエント選書 6, 昭和55年.

嶋田襄平; 『預言者マホメット』, 昭和41年.

……………; 『イスラム教史』, 世界の宗教史叢書 5, 1978.

藤本勝次(編)・伴康哉・池田修(訳); 『コーラン』, 世界の名著15, 昭和45年.

前嶋信次; 『アラビア史』, 昭和46年.

Nicholson, R. A.; *A Literary History of the Arabs*, Cambridge, repr. 1969.

(9) その他

H. H. ベンサソン(編)・石田友雄(訳); 『ユダヤ民族史』第1巻(昭和51年), 第2巻(昭和52年).

森安達也; 『キリスト教史Ⅲ』, 世界の宗教史叢書 3, 1978.

Grohmann A.; “Papyruskunde” in *Handbuch der Orientalistik*, I. Abt., Ergänzungsband II, I. Halbband, Leiden/Köln, 1966.

[補 註]

尚, ナバタイ王の統治年と順位については異論があるが, 今回参照した Cantineau (op. cit., 1930), R. Dussaud (*La pénétration des arabes en Syrie avant l’Islam*, Paris, 1955), Lindner (op. cit., 1980), Rheinisches Landmuseum Bonn (op. cit., 1981) の中では, 小さい差異を別として R. Dussaud を除く三者が比較的良好に一致しているので, Lindner のものを代表として採用した.

[後 記]

原稿提出後, 関連する多数の文献に接することができた: al-Ansary (1982), Bartlett (1979), Beeston (1979), Eph'al (1982), Montgomery (1934/1969), Peters (1978), Smith (1954), von Wissmann (1964, 1975), ben-Zvi (1961) 等々. 校正の際多少とも訂正と追加を行ったが, 未だ不十分である. 従って以下の記述に対する補充・修正を行う機会を, 海外出張後できるだけすみやかに得たいと思っている.

IV. イスラム以前のアラブ関係歴史年表

古代オリエント Ancient Near East	北 ア ラ ブ North Arabs	南 ア ラ ブ South Arabians
Proto-Sinaitic 碑文 G 1600-1500 D 1850-1600 C/N 15C		c. 1700 Luqmān b. 'Ād, Marib のダムを建設 (伝説)
Proto-Palestinian G 1600-1100 =early inscribed objects D 18-17C =Old Palestinian C/N 17-12C		15C前半 エジプトの Hatshepsut 女王, 艦隊を紅海沿岸より Land of Punt に派遣.
Proto-Arabic C/N 13C		
c. 1200 Dêr 'Allā 碑 文 (Proto-Sinaitic or Proto-Arabian, Driver による)		
1200-1100 Balū'ah 碑文 (Sinaitic 碑文と South Arabian の 中間, Driver によ る)	1075 Midianites, ラクダを使用して Israelites を攻撃, 家畜としての使用は これより後.	

	古代オリエント Ancient Near East	北アラブ North Arabs	南アラブ South Arabians
123	Byblos 碑文 G 1000 = Byblos-Phoenician D 11/10C = Phoenician C/N 1100		Saba, 二千年紀後半か一千年紀初頭に Marib 平原に住みつく。
900			又, Marib の南に首都 Sirwāḥ を築き, この頃より交易ルート確保に努める。 South Arabic 碑文年代, 10C より (C/N による) 950 Solomon と Hiram of Tyre, Ophir ヘフェニキア人の乗る艦隊を派遣。 c. 945 Bilqīs (Queen of Sheba), Solomon と会見 (伝説?)
800	南ユダ王国 Jehoram (851-843) の時 'the Arabians that were near the Ethiopians' が Judah に攻め入る。	880 Euphrates 上流の Bet Zamāni の内情に介入し Assurnasirpal (884-) の地方君主を例した "Aramaean bedouins" は Arabs の可能性 (A. Grohmann) 854 Qarqar (Ḥamāḥ の北) の戦いで, アッシリアの Shalmaneser III (858-824) の遠征軍に対抗する同盟軍に Aribi の Gindibu' がラクダ1000頭を率いて参加。	
	南ユダ王国 'Uzziah (c. 785-733), アラ		8C初 最古の South Arabian 碑文 (W. F. Albright; Beeston による)

古代オリエント Ancient Near East	北 ア ラ ブ North Arabs	南 ア ラ ブ South Arabians
<p>ブ部族の Me'un-ites を撃退。 (II Ch 26:7). Tiglath-Pileser III の碑文では、彼らはエジプトとの国境に住む。 Minaeans との関連を主張する人もあるが、根拠は弱い。</p> <p>南ユダ王国 Hezekiah (c. 727-698), Me'unites を撃退 (I Ch 4:41)</p>	<p>738 Tiglath-Pileser III (744-727) に Zibibi, queen of Aribi が入貢—Qedar 部族で Adummatu を支配 (A. Grohmann)</p> <p>734 同王により Idiba'il, Muṣri (Midian と Ḥigāz の北) における同王の知事とされる (Grohmann)</p> <p>732 同王に Samsi, queen of Aribi が忠誠を誓う。同王より regent をつけられる。</p> <p>728 (Hitti) 同王に Temai (Taymā'), Mas'a (Maśša', Gen 25:13), Ḥayappa ('Ēfah, Gen 25:4), Badana 等も入貢。</p> <p>715 Sargon II (721-705) アラビア遠征で Tamud と Ḥayappa, Marsimani 部族を征服。 Samsi 入貢。</p> <p>703 Kish の戦いで Sennacherib (704-681) に対する反アッシリア運動を Iati'e, queen of Aribi が支援、彼女の兄弟が Aribi 軍を指揮するも捕わる。</p>	<p>728 (Hitti) Tiglath-Pileser III に Sabaeans 入貢。</p> <p>715 Sargon II に Saba' の It'amara が入貢。 →8C末にサバ王国成立していた？</p>
700	<p>691-689 同王の治世に息子 Esarhaddon が Aribi と Adummu (Dūmat al-Ġandal) に遠征。 Te'elkhunu (queen) は Kidri (=Qedar) 族の Khazailu (Ḥazael) の援助を得て抵抗するが、共に破れて Te'elkhunu は神々の像と共に奪われる。</p>	<p>700-500 最古の Minaean/Sabaeen 碑文の年代 (Driver)</p> <p>7C 最古の Sabaeen 碑文 (boustrophedon) (一般の解釈—Doe)</p> <p>8-7C Marib dam の再建, 月神 'Ilumquh の 'Awwām 神殿建造。</p> <p>685 サバの Karib'il, Sennacherib に入貢。</p>

古代オリエント Ancient Near East	北 ア ラ ブ North Arabs	南 ア ラ ブ South Arabians
	<p>c. 676 Esarhaddon (680-669) に対して Khazailu が Nineveh に入貢し、憐れられた神々の返還を求める。Assyria で育った Tabua (Tarbua) を queen として返す。</p> <p>676 Wādī Sirḥān の Bazu (Būz, Je25 : 23, Gen 22 : 21) と Khazu (=Khāzō, Gen 22 : 22) に遠征。</p> <p>675 Khazailu 他界し、その子 Iata' (=Uaite'=Ia'lu) を即位させる。Uabu (=Wahb) が Iata' に反乱、Assyria の援軍により破られる。</p> <p>650 Ashurbanipal (668-633) に対して Aribi の Uaite' I が反乱し、Abi-iate' と Aiammu に Akkad を攻略させるが破れる。 又、西方では Qedar 族長 Ammuladin が反乱。</p> <p>? Uaite' I, Natnu of Nebaite のもとに逃れるが、捕われる。 ? この後、Aribi を Abi-iate' と Uaite' II が率いる。</p> <p>641-638 Aribi 軍, Assyria に次々と破られる。</p>	<p>この頃 Ma'rib (Mariaba—Artemidorus) に遷都 (Hitti)</p> <p>7C エジプトの Necho II (610-595), Africa 東まわりの周航をさせる (フェニキア人乗組員)</p>

古代オリエント Ancient Near East	北 ア ラ ブ North Arabs		南 ア ラ ブ South Arabians				
	ナ バ タ イ Petra/ Nabataeans	北 ア ラ ブ North Arabs	マ イ ン Ma'in	サ バ Saba'	ア ウ サ ン 'Awsān	カ タ バ ン Qatabān	ハ ド ラ マ ウ ト Ḥaḍramawt
この頃 Lydia 王 Croesus と同盟した Arab 王 Aragdes/ Maragdes (Xenophon)	6C 前半 Nabataeans (al-'Anbāt, Naba- taei) トランスヨル ダンより Edom に 移り, Petra を取 る. land of Seir で	599 New Babylonian の Nebuchadnezzar II シリア砂漠西の Qedar 族を攻撃 (Jer 49:28ff)	首都 Qarnāw/Carna 月神名 Wadd	首都 Ma'rib/Mariaba 月神名 'Ilumquh	首都 Miswar 月神名 Wadd	首都 Timna' 月神名 'Amm	首都 Shabwa 月神名 Sin
6C Ezekiel (27:21) 'Arabia and all the princes of Kedar'	の Edomites (=Idumeans) の先 住者は Horites (=Hurri). Petra= Sela'=al-Raqīm= Wādī Mūsā. エドム人はその後 北上し, Hebron 丘 陵地帯と Marissa に定着.	6C Taymanite 碑文 (Taymā') 6C Jawfian 碑文 (Adummu=Dūmat al-Ġandal= al-Ġawf) 6C-5C 中頃 Dedanite 碑文 (Dedān=Daydān =al-'Uḷā) 6/5C Thamudic 碑 文 -AD 3/4C c. 552 New Babylonia の Nabonidus (555- 539) が c. 552-542 の間 Taymā' に都 を置く. 539 Cyrus II, Nabonidus を破る.		6-5C Saba' 王国 India に通商基地 (Agatharchides)		6C 最初の Mukarrib (=priest-king?), Sumhu'alay Watar と Hawf'amm Yuhan'im (Albright)	

古代オリエント Ancient Near East	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	マイン Ma'in	サバ Saba'	アウサン 'Awsān	カタバン Qatabān	ハドラマウト Ḥaḍramawt
Darius I (521–485), Scylax of Caryanda を送り、インドから 紅海まで航海させ る。		この攻撃に Arabs 参加 (Xenophon)— Achaemenid Persia 成立. 525 Cambyses (Achaemenid Persia 第2代) Egypt 遠征途上で Arabia 諸部族と同 盟. この頃 Darius I (521–485) 「Arabs は Persia に屈する ことはなかった」 (Herodotus)		一千年紀前半 最古 の South Arabian 碑文年代 (I. J. Gelb)			
500 472 Aeschylus (525– 456) の Persae 成 立. この中で Xerxes 軍中の Arab の武将に言及= Greek 文献中での アラブ人言及の初 出. c. 430 Herodotus (484–424) の		後半 エジプトの Ismailia 近くの Tell el-Maskhūṭa 出土 Aramaic 碑文, Qedar 部族の王に	後半 Dedan 駐留開 始 (Winnet). 少く とも Waqah'il Ṣadiq 王とその子 Abkarib Yatha' 王	5C 初 最古の South Arabian 碑文年代 (ギリシアの影響, J. Pirenne— Beeston による) c. 450 より Karib'il Watar (最後の mukarrib/最初の malik)—c. 410	Awsān の初期年代 不明, 東アフリカ との交易で繁栄. この頃 最後の王 Martawa	5C 首都 Timna' (Thomna) の初期 建築年代. Wādī Baiḥān の中 央運河建設もこの 頃 (AD 1C でもこ れは使用中)	

古代オリエント Ancient Near East	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	マイン Ma'in	サバ Saba'	アウサン 'Awsān	カタバン Qatabān	ハドラマウト Ḥaḍramawt
Histories 成立 (474 年の記述で終る). アラブへの言及多 し.		言及. 5C 後半 Liḥyānite 碑文 (al-'Ulā), —3C 後半. Laianitai (Agatharchides)/ Lechieni (Plinius)	の統治の間存在(こ れらの王の年代を Albright, Ryckmans らは 3-2C とする)	c. 410 Karib'il Watar, Awsān を 征服.	c. 410 Saba' に征服 さる. 一部は Saba' に, 中央部は Qata- bān に併合さる. 1.6万殺され, 4万 捕わる.	c. 410 Saba' に滅さ れた Awsān の領土 を支配. Qatabān は Saba' の属国状 態.	
<div>400</div> <div> パルミューラ Tadmor/ Palmyrenes </div> 1110 Assyria の Tiglath-Pileser I, 西征して Aramaeans との戦 いで Tadmor を破 る. c. 950 Solomon, 荒 野に Tadmor を建 てる (II Chr 8:4, 恐らく Tadmor= Tamar) しかし少く とも歴代誌作者の 200 BC 頃 Tadmor は外国にまで知ら れていたことにな る. c. 500 より Arab 遊 牧民が周辺より流 入し定着.	4C 前半 以降400年 以上 South Arabia と地中海を結ぶル ート上の重要都市 となる.	この頃 Arabian Gulf 入口の Charax Spasini を Arabs が支配.	c. 400 マイン王国の 始まり (Albright) ハドラマウトも支 配.			c. 350 最盛期,	この頃 Ma'in の支

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	マイン Ma'in	サバ Saba'	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Hāḍramawt
330 Darius III, Alexander the Great に破れる— Achaemenid Persia 滅亡.	343 アケメネス朝 Artaxerxes Ochus, Egypt を攻撃. 323 Alexander the Great, Anaxicrates により アラビア半 島を周航させる (Theophrastus の 情報源) c. 312 Petra, Antigonus (シリア でのアレキサンダ ーの後継者)の軍に 抵抗. 4C 末 この頃まだ遊 牧生活, しかし交易 に従事し, 裕富だっ た. (Diodorus Siculus [80-29 BC] の Bibliotheca historica による)	334 Alexander the Great の遠征 (-322) 中, 使節を送らな かったのは Arab の み (Strabon). 征服 されて衣服と武器 を提供した (Livius/ Plinius) [Alexander the Great の後 Arabia 西部は Ptolemaios に, 他は Antiochus についた]	c. 343 Abyada' Yatha' 王 (RES 3022—Winnet) c. 320 Dedan での駐 留開始 (Pirenne)		Okelis より Abyan まで支配.	配下.
300 c. 300 Tadmor, Seleucid Empire の支配下に入る.			3C Saba', Qatabān, Hāḍramawt と同時 代 (Eratosthenes に よる Strabon に基			285 Saba' と戦って 破れる (Yatha'-

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	マイン Ma'in	サバ Saba'	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
247 Parthia (Arsacid Persia) 成立.		217 Raphia の戦いで Arab は Anthiochus III につき, Ptolemaios III に破れる.	く)			'amar Bayin の頃?)
200 2C Eudoxus of Cyzicus, Egypt より India まで航海—モンスーンを利用.	c. 169 初代の王 Aretas I (Haretat, Haritat, al-Ḥarīth) Negev の Khalasa 出土ナバタイ語碑文	205/204 Antiochus III, Arabian Gulf の岸にある Gerrha に遠征.	3C 前半 最盛期 この頃 Dedan 駐留 (Doe)			
この頃 South Syria, Lebanon, Upper Galilee にアラブ部族の Itureans が活躍 (Gen 25 : 15, I Chr 5 : 19) = Ituraea	ユダヤの大祭司 Jason 失敗して Antiochus IV Epiphanes の手より 'Aretas the ruler of the Arabs' の元に逃れるが, ここも追われる. (2 Macc 5) 167 ユダヤの				ヒムヤル Ḥimyar 元来 Ḥimyar は Qatabān の支配下, カタバンの月神 'Amm の子と称していた. 首都 Zafār 月神名 'Amm	2C Mukarrib の Yada' 'ab Dhubyān b. Šahr の頃, 既に失地回復. ヒムヤルの台頭後王を自称した?

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	マイン Ma'in	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Hāḍramawt
104/103 ハスモン家の Judah Aristobulus I (104-103) は Itureans の領土を奪い、ユダヤ教に改宗させる (Josephus)	Hasmonean revolt, 反乱指導者の Mattathias の息子達 Jehudah (166-160) と Jonathan (160-142) の時代, Petra は彼らと同盟して Seleucids に反抗. c. 120 Aretas II 即位 (Hérothymos, Erotimus) -c. 96		115 独立失うーヒムヤルの台頭と同期?	この頃より後期サバ王国.	118/115/109 ヒムヤル紀元ーヒムヤルの台頭. (115に従う者多い)		
100	この頃 Gaza と同盟, ハスモン家の Alexander Yannai (103-76) に対抗. ガザが攻撃された時アレタス2世救援せず. c. 96 その子 Obodas					2C末 ヒムヤルの台頭により覇権を失う.	

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	カタバン Qatabān	ハドラマウト Ḥaḍramawt
	<p>I (Obodat, Abodat, 'Obidath, 'Ubaydah) -c. 87</p> <p>93/90 Alexander Yannai と戦い, ユダヤのヨルダン東への進出を止める.</p> <p>c. 87 Rabel I (Rabbēl, Rabilos, Rabilus, Rabb'il)</p> <p>同年 Aretas III Philhellenos 即位 (Obodas I の子)-62 最初のコインを作る.</p> <p>85 セレウコス朝 Antiochus XII Dionysus を破り殺す.</p> <p>84 セレウコス朝より Damascus を奪う (-72)</p> <p>72 紅海進出を狙ったローマの将軍 Pompeius (106-48) に攻撃され, 協定を結ぶ.</p>	<p>この頃 Pontus 王の Mithridates VI (c. 120-63), Rome に挑戦する (88-63).</p> <p>この時 Arabs はローマ側につく.</p> <p>1C Šafaitic 碑文 -AD 4C</p>	<p>75以降'Ilyafa' Yašur II (最後の王?)—Qatabān の Šahr Yagul Yuhargib の属王.</p>			

パルミューラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
	65 ハスモン家の内紛で兄 Hyrcanus II と協定を結び Jerusalem を攻撃. しかしローマの総督 Scaurus の介入で撤退中に弟 Aristobulus 軍に追撃さる.					
64 Pompeius, Syria に遠征し Antioch を併合し, ローマのシリア州とする	65 Pompeius, Petra 征服に出かけるが, Judea の内紛で引返す.	64 Seleukos 朝, Pompeius に滅される. この時 Arabs は Rome に敵対.				
63 Pompeius, Jerusalem 占領 = end of Hasmoneans. Itureans は領土回復, 後 Seleucids 後の空白に国家を築き, 一時 Damascus を包囲.	62 ローマの総督 Scaurus, Petra 攻撃するも成攻せず.					
	62 前王の子 Obodas II (-56/47) 即位					
	56/47 Malichus I (Maliku, Malichos, Malchos) -30	53 第1回3頭政治の1人 Crassus, Carrhae の戦いで Parthia に破れる.				

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
51 Parthia, Syria を 占領.	48-30 Egypt におけ る最古の Nabata- ean 碑文の日付. (E. Littmann, No. 81)	51 Crassusの後をつ いだ Cassius, Parthia を破る. これらの戦いで Arabs は Rome の 側につく.				
44 最古の年代を持 つ Palmyrene 碑文	47 同王, Caesar 援 助のため Alexandria に騎兵 を送る.					
42/41 Marcus Antonius, Tadmor を襲うが住民既に 逃走し, 空しく退却 (アッピアノスのロ ーマ内戦史第5巻)	41 Parthia, Judea に 侵入し, Malichus I はこれに服従.					
38 Antonius の武将 Ventidius, シリア よりパルチアを追 放.	32 Actium の戦いで Antonius に援軍を 送る.					
31 Diodorus Siculus の Bibliotheca historica 成立. Arab への言及あ り.	31 Malichus I, Herod と戦い破れ る. 30 その子 Obodas III (-9) 即位. 宰相 は Sholi (Syllaeus/					

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
6 Strabon (64-AD 24) の Geography 第1稿完成. Arab への言及多し.	<p>Syllaios, Sullai) 在位中 Herod と戦い破れる.</p> <p>25/24 Augustus の命によるエジプト総督 Aelius Gallus のアラビア遠征に名目上協力.</p> <p>9 Aretas IV Philopatris/Philodemos (-AD 40) 最盛期.</p>	25/24 Aelius Gallus の Arabia 遠征, ユダヤの Herod は分遣隊を送る.	<p>25/24 Aelius Gallus の遠征に関する Strabon の記述中, 首都 Qarnawu はなし. しかし Plinius (vi, 32) によるとこの時ミナ人は繁栄していた.</p> <p>25/24 Aelius Gallus の遠征軍に対し Ilasaros(= 'Ilšarah) が Mariaba を守る (Strabon による) [Beeston によれば Saba' の Mariaba でなく al-'Abr の古名?]</p> <p>この頃 ギリシア人 Hippalus, インド洋上のモンスーン「ヒッパロスの風」の秘密を知る. 以降対インド交易の南アラビア独占は終る.</p>		この頃 Šahr Yagul Yuhargib (malik/mukarrib)	
c. 18 この頃より Rome は内政に干渉し始める.	<p>c. 30 Ḥegra (al-Ḥiḡr, Madā'in Ṣāliḥ) に進出, 碑文を残す.</p> <p>? Aretas IV の部下, Damascus で Paul を捕えようとする. (2 Cor 11:32)</p>				ヒムヤルの進出で, 海岸交易の支配を失う.	

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	カタバン Qatabān	ハド라마ウト Hādrāmawt
37? 旧関税法成立.	36 Aretas IV の娘を妃としていたユダヤの Herodes Antipas (4BC-AD 49) が, 妃に不義を働き, 彼女は Petra に戻る(32). そこで Aretas IV 彼を討つ.					
	40 その子 Malichus II (-70) この頃 紅海北部の Leuce Come 港に 'Malichas' 王の警備隊がいた. (Periplus 19)		中頃 The Periplus of the Erythraean Sea「エリュトウラ一海案内記」成立 (異説多し)	1C 中頃以前 Himyar 王, King of Saba' & Dū Raydān と称す. 「サバとヒムヤルの連合国家」形成— 3 C 末		
	67 ローマの Titus 帝の Jerusalem 攻撃に軍隊派遣.		この頃より 南アラビアの碑文中にベドウィン ('rb/'rb) への言及が出現. 北アラブ系人名も増加.			
	71 前王の子, 最後の王 Rabel II Soter (-106)	77 Plinius の Historia Naturalis 成立. 北アラブとして Nabataeans と Qedar 族を挙げる.	77 Plinius の Historia Naturalis 成立, 南アラビアの記述多し.			
	c. 89 Negev の Avdat (Oboda) 出土ナバタイ語碑文の年代 (-126)		1C (Plinius) Minaei	1C (Plinius) Sabaei	1C (Plinius) Homeritae	1C (Plinius) Atramitae
	93-99 死海の			首都 Zafar=	Gebbanitae (首都 Thomna)	(Plinius)= Chatramotitae (Eratosthenes)=

バルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Ḥimyar	カタバン Qatabān	ハドラムウト Ḥaḍramawt
	Nachal Hever 出土 のナバタイ語パピ ルス年代. 94/95 Damascus 付 近出土のナバタイ 語石柱の年代. (CIS II, 161)		この頃 'Ilšaraḥ Yaḥḍib 王 (Marṭadum 族), ヒムヤルと戦う. この頃 Marib の伝 統王朝, ヒムヤルと 戦う.	Sapphar = Sephar (Gen 10:30) (Raydān 城) この頃 Damar'ali Yuhabbir 王, サバ との戦いに勝つ.	1C Waraw'il Ghaylān Yuhan'im 貨幣鑄造. c. 90-100 Šahr Hilāl Yuhaqbid 王, 首都 Timna' を破壊され る. (Wissman)	Hazarmaweth (Heb.) 首都 Shabwa = Sabota (Plinius) = Sabbatha (Periplus) 港 Qana' = Cana (Periplus) Mayfa'ah = Maifa metropolis (Ptolemy)
123 Hadrianus 帝, Palmyra 訪問. 129/130 Hadrianus, Palmyra 再訪— Hadriana Palmyra, 以降最盛期. 137 新関税法成立.	105/106 Trajanus 帝, 総督 Cornelius Palma の手により Petra を Provincia Arabia とする. = ボスラ紀元元年 (州都が後に Buṣrā /Bostra に移る) [現代の Huwayṭāt Bedouins はナバタ イ人の子孫] 131 Hadrianus, Petra 訪問, コイン に Adriane Metropolis		この頃 Wahab'il Yaḥūz 王 (Bata' 族), ヒムヤル王 Damar'ali Yuhabbir を Marib より撃退. この頃 サバの Gurat 族王朝 Ḥaḍramawt 王の Yada'il や Qatabān 王の Nabaṭ と戦う.	しかし, 直後に Saba' の Bata' 族王 朝 Wahab'il Yaḥūz により撃退さる.	この頃 前王の子 Nabaṭ Yuhan'im, 首都を南に移す. この頃 Saba' の Gurat 族王朝と戦 う.	この頃 Yada'il 王, Saba' の Gurat 族 王朝と戦う.
165 Lucius Verus 帝, Dura-Europos	148 Buṣrā 出土 Nabataean 語碑文. Nabataeans による 最後の直接資料.		2C 中頃 Ptolemy Geography (vi. 7, 23) でミナ人に言及 (先人の記録による) 統一.	この頃 Šammar Yuhar'iš I, Marib を占領.	中頃 Ḥaḍramawt の Yada'il 王に征服 される.	中頃 Yada'il 王, Qatabān を征服.

パルユミラ Tadmor/ Palmyrenes	ナバタイ Petra/ Nabataeans	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
を征服. 193 Septimius Severus (-211) の時 半属州状態.	190 Sinai (Wadi Mukattab) 出土ナ バタイ語碑文. (Euting 463)	193 Septimius Severus (-211) の妃 は Julia Domna と いうシリア女, エメ サのパール神殿(黒 石)の祭司の娘, ロ ーマにもパール神 殿を作る.	一最後の記述, 以この頃 Ḥaḍramawt の Yada'ab Ghaylān と同盟. 又 Aksum の Gadarat 王とも同 盟. この頃 Ša'ir 'Awtar 王 Abyssinians を 追撃し, その後 Ḥaḍramawt を攻め る.	この頃 Saba' の Ša'ir 'Awtar 王と 一時的に同盟した ため, 国内より Abyssinians は撤 退.	この頃 Yada'ab Ghaylān I, Saba' の 'Alhān Nahfān 及び Aksum の Gadarat 王と同盟する. この頃 'Il'azz 王の時, Saba' の Hamdan 族王朝 Ša'ir 'Awtar に首都 Shabwa と Qana' 港を攻められる. この後, 首都を Shibam に移す.
		キンダ Kindah	北アラブ North Arabs		
		2C 末 Rabr'ah (king of Kinda & Qaḥṭān), Sabaeans に首都 Qaryat al- Fāw (=Dāt Kahl) を攻撃さる (Ja 635 一最古のキンダへ の言及)		同じ頃 Gurat 族王 朝の兄弟 'Ilšarah Yaḥḍib と Ya'zil Bayin が Himyar を国内より追放.	この頃 Saba' の Gurat 王朝に Marib より追放さ れる.
	ラフム Lakhmids	2C 末-3C 前半 Mālik (king of Kinda & Madhig & banū 'A'rāb) と al-Ḥārith (King of Asad) のもとに Saba' 王より使節 来たる (Ja 2110)			

バルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ラ フ ム Lakhmids	キ ン ダ Kindah	北 ア ラ ブ North Arabs	サ Saba' バ	ヒ ム ヤ ル Himyar	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
226 Sasanian Persia 成立 (Ardashir I [-240])	211 Sinai (Wadi Mukattab) 出土のナバタイ語碑文年代 (Euting 457). 3C 初 Yaman 出身の Tanūkh 部族, ユーフラテス西に移り al-Ḥīrah の町を築く. 最初の指導者 Mālik b. Fahm (al-'Azdi とする説もある). ? その子 Ġadīmah al-Abraš, Ardashir I の臣下となる.		211 前帝の子 Caracalla (198-217) と Geta (209-212) 共同統治者として立つ. 共に Julia Domna の子. 後 Caracalla は Geta を殺す. 218 Elagabalus 帝 (-222) と Alexander Severus (222-235), 共に Julia Domna の妹 Julia Maesa の孫.			
c. 230 Alexander Severus 帝, Palmyra 訪問.			244 Philipus Arabus 帝 (-249) 即位. シリア人でシリアにフィリップポリスを建設. 貨幣にパールベック神殿を刻む.			
257 ササン朝の Shapur I, Antioch を占領.	c. 250 'Umm al-Ġamāl (Hawrān) 出土 Nabataean 語碑文 (CIS 192) 「これは Tanūkh 部族の王 Gadīmat の précepteur である, Fihr b. Šullay の墓石である」				中頃 Tha 'arān Ya'ūb Yuhan'im, Ḥaḍramawt の 'Il'azz Yaliṭ II の即位式に使節を送る.	中頃 'Il'azz Yaliṭ II の即位式に Ḥimyar の王 Ṭa'arān Ya'ūb Yuhan'im の使節来たる. Hind と Palmyra の使節も来る.
260 Valerianus 帝, Edessa で Shapur I に捕わる.						
261/263 Palmyra の Odaynath (Odenathus=	3C 後半 South Arabia の Azd 部族, ユーフラテス下					

パルミュラ Tadmor/ Palmyrenes	ラフム Lakhmids	キンダ Kindah	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
Udhaynah) 王, Shapur I を破り Ctesiphon まで追 う. Gallienus 帝, 父の 仇を討ってくれた Odaynath に Restitutor totius Orientis 「全東方の 救い主」の称号を与 える.	流に進出し al- Ḥirah を占領. Tanūkh 部族と Azd 部族は同盟関 係に入る. [al-Ḥirah の町には 多数の 'Ibād と呼 ばれるアラブ人キ リスト教徒がいた]					
263 Neo-Platonic 学 派の哲学者 Longinus アテネよ り来たり, 王妃 Zenobia の教師兼 助言者となる.						
264 Odaynath, Gallienus 帝より dux Orientis 「東方 の副帝」とさる.						
266/267 Odaynath とその長男 Ḥimṣ (Emesa) で暗殺さ る. その子 WahbAllāt (Athenodorus) 即 位, 母 Zenobia (Bath-Zabbay, al- Zabbā', Zaynab) 撰	266 Egypt における 最新の Nabataean 碑文 (E. Littmann, No. 46a). 267 Ḥegra 出土 Nabataean 語碑文 (JS nab 17), 古典 北アラビア語に近					

バルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ラ フ ム Lakhmids	キ ン ダ Kindah	北 ア ラ ブ North Arabs	サ Saba'	ヒ ム ヤ ル Himyar	ハドラマウト Ḥaḍramawt
<p>政となる,「東方の女王」</p> <p>? Boşrah (ローマのシリア州都)征服.</p> <p>269 Zenobia 軍, Egypt に侵入.</p> <p>270/271 Alexandria 占領, 息子は「エジプト王」と称す. 将軍 Zabbay と Zabda.</p> <p>272/273 Aurelianus 帝, 将軍 Probus をエジプトに送り回復させる. 自らはシリアに向い Antioch と Emesa でゼノビアの将軍 Zabda を破る. Palmyra 包囲され Zenobia は脱出し, Euphrates 渡河寸前に捕わる.</p> <p>273 Aurelianus 退却後 Palmyra 再度反乱し, 破壊さる. 通説では Zenobia</p>	<p>い. 1 行の Thamudic 語を併う.</p> <p>267/268 Sinai 出土の Nabataean 語碑文最後の日付.</p> <p>? Ġaḍīmah, al-Zabbā' (Zenobia) に謀殺される (伝承).</p> <p>? 前王の妹の子 'Amr b. 'Adī b. Naṣr b. Rabī'ah b. Lakhm (南アラビアのラフム家)王位につく.</p> <p>277 ササン朝 Bahram II, Mani</p>					

パルミユラ Tadmor/ Palmyrenes	ラフム Lakhmids	キンダ Kindah	北アラブ North Arabs	サバ Saba'	ヒムヤル Himyar	ハドラマウト Ḥaḍramawt
<p>はローマで年金を貰い余生を送る。</p> <p>325 Marinus (bishop of Palmyra), Nicaea 会議に出席。</p> <p>634 Khalid b. al-Walid 将軍の包囲の後, Tadmur イスラムに屈する。</p>	<p>を処刑するも, アムル王はマニ教を保護。</p>					
<p>ガッサーン Ghassānids</p>						
<p>3C 末 South Arabia の al-Azd 部族の Ghassān 支族が北上し, Ġawlān (ゴラン) 高原の al-Ġābiyah などの周辺に定着。</p> <p>[移動の間にキリスト教に改宗してシリア化, Aramaic 採用(2言語併用)]</p>	<p>[日常語は Arabic, 文書は Syriac]</p>	<p>3C前後 Mu'awiyat b. Rab'at 王碑文と 'Igl b. Haf'am 碑文 (Qaryat al-Faw 出土).</p> <p>=南アラビア文字で北アラビア語を表記。</p>			<p>3C 末 Šammar Yuhar'iš III, Saba' の Marib を再征服. Ḥaḍramawt 征服. Abyssinians の援助で Tihāma にも出陣 'king of Saba' & Dhū Rayḍān & Ḥaḍramawt & Yamna' (サバ王!! と呼ばれている) [Lakhm の Imru' al-Qays と同時代の人]</p>	<p>3C 末 Šarah'il 王と Rabšams 王の時 Ḥimyar の Šammar Yuhar'iš III に征服され, 略奪される。以降, 数回攻撃を受ける。</p>

ガッサーン Ghassānids	ラ フ ム Lakhmids	キ ン ダ Kindah	北 ア ラ ブ North Arabs	ヒ ム ヤ ル Himyar	ハド라마ウト Ḥaḍramawt
	307 al-'Ula 出土ナ バタイ語墓碑年代. (JS 386)	この頃 Kingdom of Kindah, 'Imru' al- Qays の南征のため 崩壊. 後, 約100年間南に 戻り Saba' (=Ḥimyar) の支配 下でベドウィン軍 として戦う (?)	c. 300 最古の Arabic 文字による graffito/i (Ġabal Ramm で発見, H. Grimme の日付)	4C前半 Saba' (=Ḥimyar) のベドウィン 部隊の中に Kindah の名が現われる (Sh 32/Ja 665/Ir 32)	
	328 'Imru' al-Qays 王没す. 在世中 Naḡrān ま で遠征する. =al-Namārah 碑 文 (RES 483). =ナバタイ文字で 北アラビア語を表 記	[Kindah 部族は元 来 Ḥaḍramawt の 部族]	この頃 Sasanid Šāpūr II (Dū al- Aktaf), 東アラビア を征服.	この頃 Constantine II (337-340) アリウ ス派の司教 Theophilus Indus を Tha'rān Yuhan'im II の元に派遣, 王 入信す. (Doe による. Hitti は356年 Constantius 帝の時とする)	
	355/356 最後の年代 を持つ Nabataean 碑文 (Hegra?)	[Ghamr dī Kindah (Naḡd の南西, メ ッカより2日), Baṭn 'Āqil (メッカ と W. al-Rumma の南の Baṣra の間), Haḡar の町々より 支配]		当時 Abyssinia にはアタナシウス派司 教 Frumentius がいて活躍中.	
363 Ḥārith II (-c. 373) その妃は Māwiyah				342 同司教 Zafar と Aden (と多分オマ ーンの Sohar) に教会建立を許される.	
c. 373 夫の死後 Māwiyah 自ら軍を 率いて, ローマと戦 いしばしば勝利を 得る.				c. 350 Aksum (エチオピア) の王 Ezana, キリスト教に入信.	中頃 Ḥimyar の支配下に入る.
395 ローマ帝国東西				361 以前 Ezana 王の軍, 前進基地を残 し南アラビアより撤退.	

ガッサーン Ghassānids	ラフム Lakhmids	キンダ Kindah	北アラブ North Arabs	ヒムヤル Ḥimyar
に分裂 4C 末 これより約 100 年間 Salḥ/				
400 Ṣalīḥ 部族の Dağā'ima 家, Syria に王国を築き ビザンツの属国と なる. 5C 後半より Ghassānids が台頭 し, 圧倒される.	c. 400 al-Nu'mān I (al-'A'war, c. 400– 418), ササン朝の Yazdagird I (399– 420) の息子 Bahrām Gōr のた めに al-Khawarnaq に城を建てる. c. 418 al-Mundir I (–462) 419 上記 Bahrām を Bahrām V (–437) としてササン朝皇 帝とする. 421 Mundir I, Bahrām V と共に 東ローマと戦う.	5C 初 Ḥimyar の Tubba' (='Abūkarib 'As'ad の子である Ḥasan の異父 (母 ?) 兄弟にあたる Ḥuḡr Ākil al- Murār (=Ḥgr b. 'mr Mlk Kdt?) が ヒムヤルの遠征軍 に従い, Yamamah で王とされる (—c. 478) = Kingdom of Kindah の再興な る. 5C 後半 Day of al- Baradān—Ḥuḡr と Salḥ の王である Ziyād b. al-Habūla との間の戦い. c. 478 Ḥuḡr 没す.	5C 後半 Qusayy (Muḥammad の5代前), Makkah の「家」の管理権を南アラブの Khuzā'ah 部族より奪取し, クサイイの 6代前のフィフル(諱名 Qurayš)の子孫 をメッカに集め「王」となる= Qurayš 部族の始まり.	c. 400 Tha'rān の孫 'Abūkarib 'As'ad 中央アラビアに遠征 (Ry 509), Yaṭrib を訪れてユダヤ教に改宗. mlk sb' wḍrydn wḥḍrmwt wymnt w'rbhmw ṭwdm wthmt という称号を持 つ. イスラム前最大の王. 449? その子 Šarah'il Ya'fur の時, Marib dam 決壊し修理, 以後これを繰り返す.

ガッサーン Ghassānids	ラフム Lakhmids	キンダ Kindah	北アラブ North Arabs	ヒムヤル Ḥimyar
c. 490 Ghassānids ビザンツの境界内に定着し、その属国となる。		その子 'Amr al-Maqṣūr 立つ。弟 Mu'āwiya al-Ḡawn は Yamāmah を支配。父 Ḥuḡr に従っていた Rabi'ah 部族は背き Taghlib 部族の Kulayb Wa'il に従う。		
495 Ḥarith IV 即位、妃は耳環の Mariyah		c. 490 'Amr と Kulayb 共に倒れる。		
[Monophysite Christians]	[Nestorian Christians]	[Nestorian(?) Christians]	5C 末 Basūs War—バクル部族の老女 Basūs に関係する雌ラクダをタグリブ部族の長老 Kulayb が傷つけたことに始まる。 バクル部族: Ḡassās b. Murrah タグリブ部族: Kulayb b. Rabi'ah と Muḥalhil	5-6C Ṭayyi' 部族, Kalb 部族がアラビア北部に遊牧する。
[ビザンツ側緩衝国家]	[ササン朝側緩衝国家]			
500				
	c. 500 Zayd b. Ḥamād とその子で詩人の 'Adī (キリスト教徒)が最初にアラビア語を書いた人の中にいる(伝承)	c. 500 その子 Ḥarith (Arethas) 王国再興。Baghdad の西の Anbar に拠る。その子 Ḥuḡr と Ma'dī Karib がビザンツを攻撃。	Quṣayy の死後、長男 'Abd al-Dār の「同盟者」 aḥlāf と弟 'Abd Manāf の「香料をつけた人々」 muṭayyabūna とが争う。 ムハンマドの時代まで続く。 6C 前半 Ḥašim (Quṣayy の孫), メッカの「イーラーフ制」成る。	

ガッサーン Ghassānids	ラ フ ム Lakhmids	キ ン ダ Kindah	北 ア ラ ブ North Arabs	ヒ ム ヤ ル Ḥimyar
502/503 Ghassānids, ビザンツのアラブ 属国として Salīḥ を圧倒す.	503/(505) Mundir III b.Mā'al-Samā' (Alamundarus), Kindah の Ḥārith に攻められ敗走.そ の娘 Hind (キリス ト教徒) を妃に貰 う——ササン朝の Kawād I, Ephtali- tes との戦いで援軍 送れず.	この頃 Mazdak 教 がアラビアにも伝 わる. 502 ビザンツと和約 す. 503 Hira を攻撃— 一時期ここを中心 にしたイラクを支 配. ラフムの Mundir III に娘の Hind を 与える.	512 Zabad 碑文 (Aleppo の南東) =the oldest Classical North Arabic. [ʿAyyām al-ʿArab]	516 M'dkrb Y'fr 王, 中央アラビア遠征——南部の Kindah 協力す (Ry 510) 517/518 (?) Yūsuf 'As'ar Yat'ar Dū Nuwās (Masrūq) 即位, ユダヤ教に改宗. 518 Dū Nuwās, キリスト教徒を攻撃——南部の Kindah 協 力す (Judaism に改宗) (Ja 1028/Ry 508). Zafar と Muza の 教会を破壊し Naḡrān (指導者 Arethas) で虐殺を行う. 以 後 Naḡrān の別名は 'Ukhdūd 「抗 (あな)」 (Qur'ān 85 : 4) となる. 523 Abyssinia, 軍を派遣してくる (指揮官 Aryaṭ ?)
	516 Ḥimyar と Kindah の遠征軍に 攻められる. この頃 Kawād I, Mazdak 教徒に苦 しむ——これに乗 じて Kindah の Ḥārith, Ḥīrah を牛 耳る (Kindainter- regnum) [Ḥīrah での詩の興隆及び Kindah による 100 年以上ものアラビア北・中部の統一]	516 Ḥimyar の中央 アラビア遠征に Kindah も参加. ラフムの Mundir III と戦う.		

ガッサーン Ghassānids	ラフム Lakhmids	キンダ Kindah	北アラブ North Arabs	ヒムヤル Ḥimyar
	は poetic <i>koinē</i> を生み出し, classical North Arabic の誕生に貢献. 又恐らく Ḥīrah (ラフム)か Anbār (キンダ)でアラビア文字誕生]		c. 525 ラフムの Mundir III の仲介で Basūs War 終結.	525 5月 Abyssinia 王 Kaleb Ella 'Aṣbeḥa (Hellestheaios, Procopius による), ビザンツの Justinianus I の要請と援助で7万の軍を送り来る. Dū Nuwās, 騎馬と共に海に入り死す =独立南アラビアの最後.
527/529 Justinianus I (527-565), Ḥārith II b. Ḡabalāh (al-'A'raḡ, -569) を王とし最高位の貴族 patricius と phylarch とする. 詩人の保護者としても有名.	527 Kawād (Qubād) I, Justinianus I を攻める. この頃 Mazdak 教徒制圧.	この頃 Mazdak 教徒を制圧した Kawād I より逃れる.		525 秋 Ḥimyar 貴族 Sumyafa' 'Aṣwa' (キリスト教徒, Esimiphaaios, Procopius による) が属王とされる. =Abyssinia の支配
	528/529 Mundir III, Kindah の Ḥārith 一族48人を殺す.	528/529 Ḥārith, ラフムの Mundir III の手より逃れるも, 後に殺される. —Kingdom of Kindah 滅亡. その子の間で内紛起る.	528 Ḡabal Usays 碑文 =Classical North Arabic	
531 ビザンツと共にササン朝と戦い, その援軍のラフムの Mundir III を破る (Callinikus の戦い)	531 ガッサーンの Ḥārith II に破れる. 同年 ササン朝	c. 530 ビザンツは Ḥimyar, Abyssinia, Kindah c. 531 Muḥalhil b. Rabr'ah 没 (最初に Julianus と qasidah 詩人), Taghlib 部族英雄, Nonnosus を送り, Qiṣṣat al-Zir の al-Zir として後世に伝わる. 対ササン朝同盟を訴える.		530 属王殺され Abrahah 実権握る.

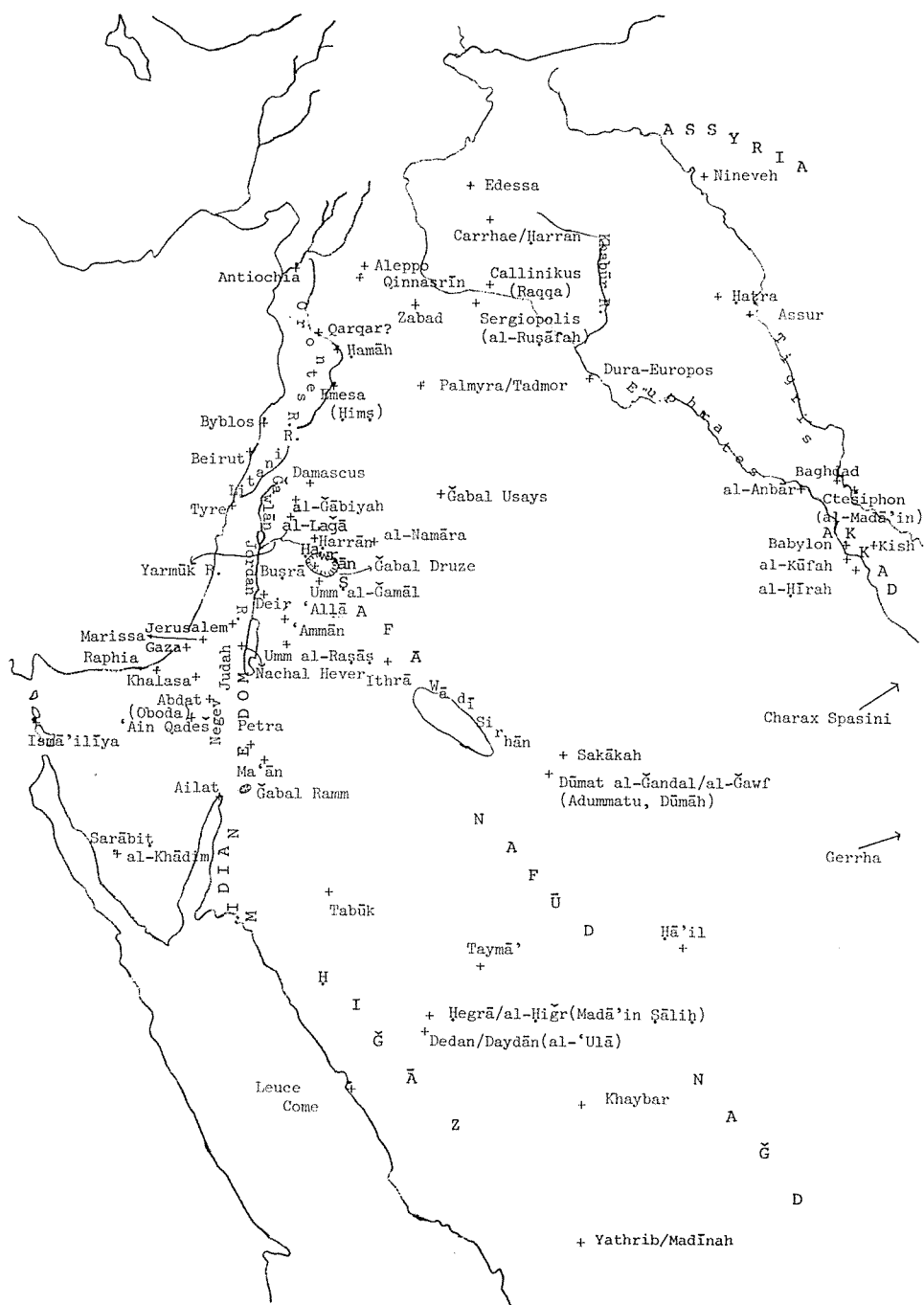
ガッサーン Ghassānids	ラ フ ム Lakhmids	北 ア ラ ブ North Arabs	ヒ ム ヤ ル Ḥimyar
541 ビザンツの将軍 Belisaurus と共に ササン朝と戦う。	Chosroes I 即位, Mazdak を処刑す。	c. 540 Ḥārith の孫 で詩人の 'Imru' al- Qays, 王国再興の 助力を求めて Constantinople の Justinianus I の元 に行くが, 帰路毒殺 される (伝承)	542/543 Abrahah, Marib dam を修復 (CIH 541) Abyssinia, Byzantium, Sasanid Persia, Lakhmids, Ghassanids の使節到来。
542 Ḥārith II の働 きかけで皇妃 Theodora は単性論 派の Jacob Baradaeus (Ya'qūb al-Barda'i, Edessa) とアラブ人 Theodorus (Buṣṣā) を主教として派遣 ⇒ Jacobite Syrian (Orthodox/ Catholic) Church.		? メッカを南アラビアの Abrahah 軍が 攻める。Muḥammad の祖父 'Abd al- Muṭṭalib の頃. 彼は Abrahah 軍の残 した財宝により富を築く. 彼の頃, 「フ ムスの規範」を広める. ? Day of Daḥis & al-Ghabra'—'Abs 部族の馬 Daḥis と Dubyān 部族の馬 al- Ghabra' との競馬で後者が不正をする. 数十年後イスラム時代に入りやっとな 解決. 'Antarah b. Šaddād (c. 525-615, キリ スト教徒) は詩人かつ戦士としてこの戦 いに活躍.	
544 ラフム軍を破り Ḥīrah を攻略する。	544 ガッサーンの Ḥārith II に Ḥīrah を攻略される。		
545 Ḥārith II の王 子, ラフムの Mundir III に捕わ れ殺される。	545 ガッサーンの Ḥārith II の王子と その妻の狩猟中を 捕え, 'Uzzā 神殿 (メッカの東北フラ ード) に捧げる。		中頃 Ṣan'a' に教会 (al-Qalīs) 建立される。Zafar の司教 Gregentius の頃. この頃 Fuqaym 部族の 2 名により Ṣan-a' の教会汚される。 これを口実にメッカを攻める。
554 Ḥārith II, Qinnasrīn の戦いで	554 ガッサーンの Ḥārith II に破れ,		

ガッサーン Ghassānids	ラフム Lakhmids	北アラブ North Arabs	ヒムヤル Ḥimyar
ラフムの Mundir III を殺す = Day of Ḥalīma	Mundir III 死ぬ (Qinnasrīn の戦い).		c. 560 Abrahah 没し, その子王位につく.
563 Ḥarith II, Constantinople を 訪問.	その子 'Amr b. Ḥind 即位. 詩人 Ṭarafa, al-Ḥarith b. Ḥilliza, 'Amr b. Kulthūm らを保護.	6C 後半 抗争による 弱体化でアラビア 北・中部で Kindah の地位が危うくな り, Ḥaḍramawt に 戻る.	この頃 最後の南アラビア語 碑文 (第3四半世紀)—A. F. L. Beeston.
568 Ḥarith II, ユダ ヤ教徒の町 Khaybar に遠征.		568 Ḥarrān 碑文 (Damascus の南 al-Laḡā 地方) = Classical North Arabic.	6C 後半 Marib dam 最後の破壊 (Qur'an 34:12)
569 前王の子 Mundir (Alamundarus) 即 位.	569/570 'Amr 王, 詩 人 'Amr b. Kulthūm に刺殺される.		
570 ラフムの Qabūs を破り Ḥīrah を占 領し, 焼く. = 'Ayn Ubāg の戦 い	弟 Qabūs 即位, ガ ッサーンと戦い破 れる. 弟 Mundir IV 即 位, ガッサーンと戦 い破れる. 12人の王子「白い人 たち」	c. 570 象の年 Muhammad 生まれる. ? the Days of al-Fiḡar 「神聖冒瀆の戦い」	570 Abrahah の子 Yaksum 即位 572 その兄弟 Masrūq 即位
580 Mundir, Tiberius II に捕わ れ Constantinople	580 その子 Nu'mān III (Abū Qabūs) 即 位. ササン朝に反乱		575/576 ササン朝 Chosroes I, 旧 Ḥimyar の王子 Sayf b. dhī Yazan の導きで將軍 Vahriz の指揮する 800 の兵を送り Abyssinia 勢力を一掃——Abyssinia の支配終り, ササン 朝の satrapy となる.

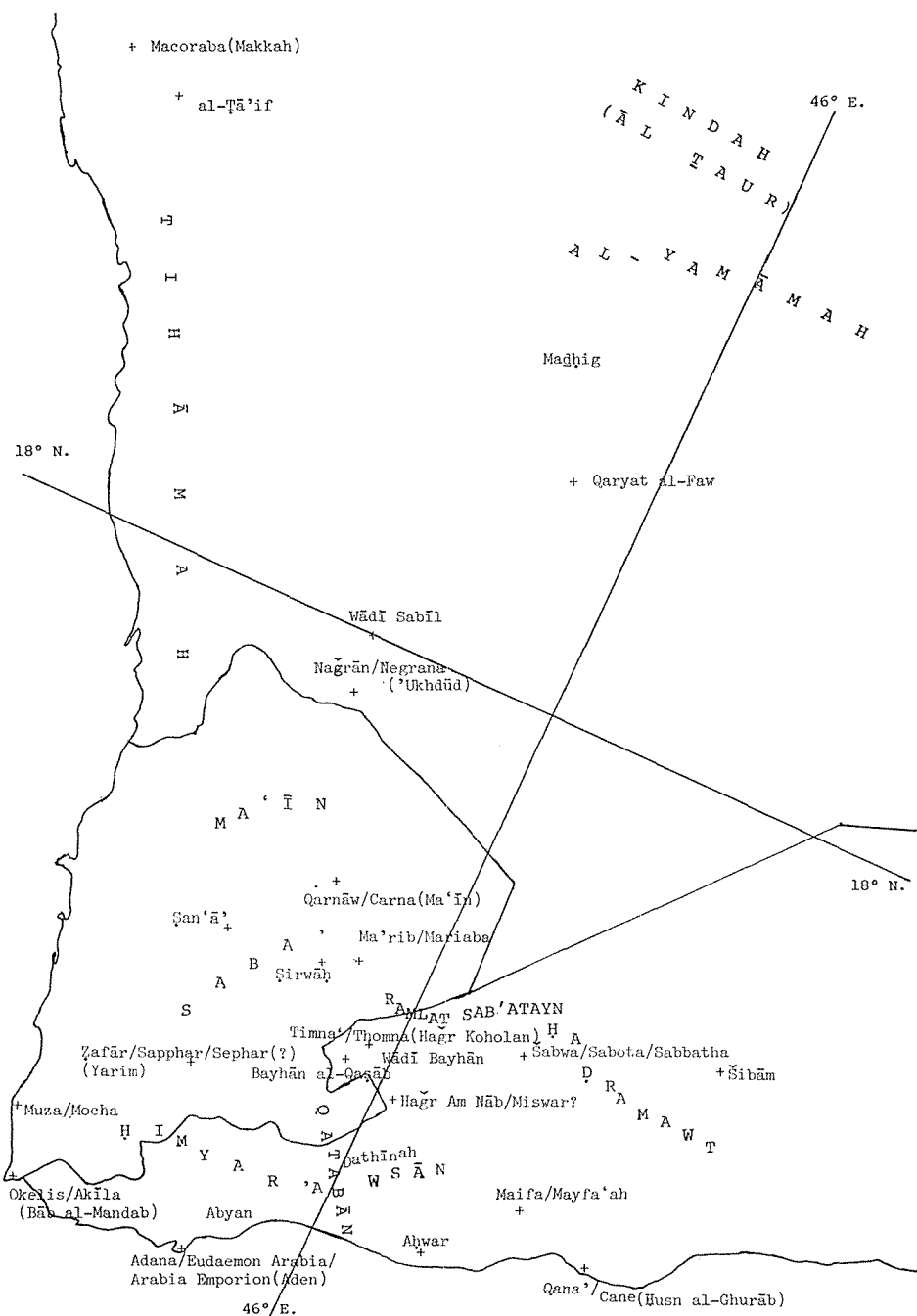
ガッサーン Ghassānids	ラフム Lakhmids	北アラブ North Arabs	ヒムヤル Ḥimyar
に送られる。後 Sicily に幽閉され る。 582/583? その子 Nu'mān 即位。反乱 を試みるが Mauritius 帝により Constantinople に送られ、捕われて Sicily に幽閉され る。	したアルメニア総 督 Bahrām Chūbīn を支援。 (ラフムの王のう ち、唯一人のキリス ト教徒) 詩人 al-Nābighah を保護。 590 Khusrō (Chosroes) II, ビザ ンツの助力で反乱 を終結し、王位回 復	6C 'Umm al-Ġamāl 碑文 (Buṣrā の南) = Classical North Arabic. 590 年代 (Muḥammad 20才代) メッカの有力者、 Constantinople に行き、「王」位を貰う (伝承) 595 Muḥammad, Khadiġah と結婚。	
613-614 ササン朝の Chosroes II, Syria を攻めて Jerusalem と Damascus を占領。 この時 Ghassānids も大きな傷手を被 る。 629 ビザンツの	602 Chosroes II, Nu'mān III を捕え る— end of Lakhmid Kingdom この後 Tayyi' 部族 の Iyās b. Qabiṣa (602-611) が支配。 しかしササン朝の 総督も任命された。 [Druze 族は自らを ラフム朝の子孫と 考えている]	c. 610 Dū Qār の戦い—ラフムの Nu'mān III の遺産を Bakr 部族の族長 Hani' が預かるが、Chosroes II が引渡しを要 求し戦う。アラブ側初めてペルシアに勝つ。 610 Muḥammad, 天使 Gabriel の声を聞く。 ? (Hiġrah の数年前) the Day of Bu'āth, Madīnah の Aws 部族と Khazraġ 部族の間の争い。 622 al-Hiġrah 聖遷。	628 第5代 satrap の Badhān, イスラムに改宗。

ガッサーン Ghassānids	北 ア ラ ブ North Arabs
<p>Heraclius I, シリアをササン朝の手より回復.</p> <p>634 Tadmur (Palmyra), Khālīd b. al-Walīd のイスラム軍の手に落ちる.</p> <p>636 Yarmūk 川の戦いでガッサーン最後の王 Gabalah b. al-Ayham, ビザンツの側で戦い破れる. =end of Ghassānid Kingdom</p>	<p>632 Muḥammad 没す.</p> <p>633 Hīrah の町, Khālīd b. al-Walīd のイスラム軍に屈する.</p> <p>643 最古の日付を持つ Arabic papyri (22 A. H., PERF No. 558/P. Berol. 15002), 既に diacritical dots を持つ.</p>
<p>後イスラムに改宗するが, しばらくして棄教し Constantinople に行く. 一部はアナトリアに行き, 一部はキリスト教徒として留まる. 他はイスラム化.</p>	<p>651 end of Sasanid Persia</p> <p>666 イスラム後で最古の日付を持つ Arabic 語碑文 (5th Muḥarram, 46 A. H., Nağran 北方の Wādī Sabīl, Z 202)</p> <p>677/678 最古の diacritical dots を持つ Arabic 語碑文 (58 A. H., Ṭa'if 近くの Saisad dam で発見, Z 68)</p>

V. イスラム以前のアラブ関係歴史地名図



(1) 北 ア ラ ブ



(2) 南 ア ラ ブ